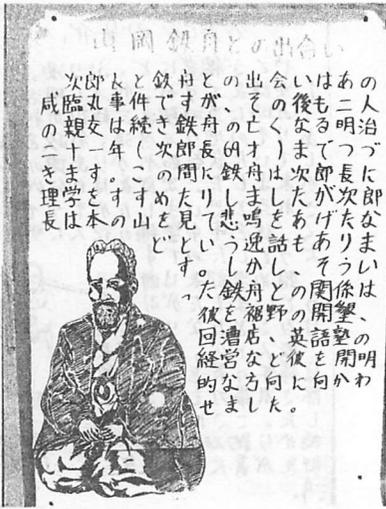








この間に鉄舟は次郎長に理学をすすめたりしましたが、次郎長は本の山を見て悲鳴をあげたなどという逸話もあります。しかし、そういった鉄舟との関係は、富士裾野の開墾、回漕店（店主を説得して清水港近代化の促進）、英語塾の経営などが彼を開明的な方向に向かわせました。



〈明治の次郎長〉

改心した次郎長は咸臨丸事件以来清水の発展に大きく貢献します。

「富士の大開墾」

明治七年（十七年）、次郎長五十五歳の時より山岡鉄舟の勧めから富士大淵村の開墾を始めます。火山灰の荒地でここを耕すのはかなり過酷な労働でした。

次郎長は補助金二〇〇〇円、月給三十円で模範囚百数名を借り、子分と共に取り組みました。次郎長の人柄から囚人達は鎖を解かれ、面会も自由でした。（当時囚人は腰を鎖で繋がれていました）

〈明治の次郎長〉

改心した次郎長は咸臨丸事件以来清水の発展に大きく貢献します。

富士の大開墾 明治七年（十七年）次郎長五十五歳の時大淵村の開墾を始めます。

荒れ地を耕すのはかなり過酷な労働でした。

補助金二〇〇〇円、月給三十円に子分と共に（当時1円15000）

模範囚百数名を借り、面会も自由でした。

次郎長の人柄から囚人達は鎖を解かれ、面会も自由でした。

そして七・八〇ヘクタールの土地が開かれましたが、一人の囚人の逃亡となり、「お上に顔が立たない」という次郎長の一言で幕を閉じました。この脱走囚は間もなく捕まり、作業を中止させたと他の囚人の恨みをかい、獄中で殺されたといわれます。

その後も大きな業績を残し、晩年には「波止場の爺さん」と子供からも親しまれつつも、明治二十六年六月十二日、おてふ子分の中でその波乱に満ちた人生に終止符を打ちました。享年七十四歳。

捕他中と獄す。その晩年か、波止場の爺さん。おてふ子分の中でその波乱に満ちた人生に終止符を打ちました。享年七十四歳。

① 神楽寺 次郎長の墓がある。 ② 梅蔵寺 次郎長の墓がある。

編集室から

・会報「次郎長」第八号をお届けします。毎度ながら、総会に間に合わせるため、夜なべて編集しました。若者たちによる次郎長特集です。

・名古屋平和公園のおてふさんの墓、補修の話はついに二年越となりました。前々号の本欄で紹介したように、発端は名古屋市インテリア会社社長広瀬正勝さんによる昨年一月の呼びかけからですが、思わぬお寺さんの待ったのために、いたずらに時日を費やしてしまいました。物事はツボをはずすとこじれることを、われわれ事務局としても自省しなければなりません。墓石が荒れるにまかされているおてふさんこそ可哀そうですが、近々応急手当に着手できることになるでしょう。

・竹内宏会長は、長銀総合研究所理事長や静岡総合研究機構理事長の要職のほかに、講演やマスコミ原稿執筆に大忙しですが、講演でも原稿でも、「次郎長翁を知る会」のPRには並々でない力を入れていきます。最近でも「文芸春秋」六月号の随筆欄に「侠客の明治維新」と題して好エッセイを書いていますが、早速反響があり、東京、神田のさる古美術商から、伏谷如水の真筆があり、寄贈の申し出があったと聞きます。

・二年後に「清水港開港百年」を迎えます。次郎長が明治の初め清水港近代化に大きな足跡を残したことは周知の事実です。本会としても、開港百年委員会に「提言」を行いたいと思います。（田）